

# コミュニティ・スクールだより

金沢市立兼六小学校  
コミュニティ・スクール事務局  
平成29年9月25日発行  
第1号



## 第1回学校運営協議会が行われました

秋冷の候、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。

さて、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度を導入した学校。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことを目指す)について、金沢市では昨年度1校をモデル校に指定、平成29年3月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正で学校運営協議会の設置が努力義務になったことを受け、今年度は本校を含め、さらに13校が指定を受けました。

本校では、1学期より委員さんの委嘱等の準備を進め、去る9月13日水曜日、第1回学校運営協議会を開催するに至りました。

### 学校運営協議会委員の皆様です

- 安宅 雅夫 (材木公民館 館長)  
井奈 孝史 (材木地区町会連合会 会長)  
大溝 了庸 (兼六小学校 学校医)  
小澤 雅人 (兼六小学校 校長)  
小西 護 (金沢文芸館 館長) ☆  
社本 秀一 (味噌蔵地区少年連盟 会長)  
谷 泰徳 (味噌蔵社会福祉協議会 会長)  
外山 郁生 (味噌蔵地区町会連合会 会長)  
野田 大介 (味噌蔵町公民館 館長) ★  
東 良光 (金沢中街頭交通推進隊 副隊長)  
兵地千恵子 (さくら保育園 園長)  
古橋 孝実 (兼六小学校育友会 会長)  
松尾 茂樹 (林鐘園 園長)  
吉川 滋 (兼六中学校 校長)  
割崎 泰 (材木地区少年連盟 会長)

(敬称略・五十音)

★は学校運営協議会会長、☆は副会長

### コミュニティ・スクールの仕組みを取り入れるメリット・魅力は何？

従来より地域との連携を求めているが、コミュニティ・スクールになるメリットや魅力ってどんなところ？

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組みを導入することによるメリットとして、主に以下の3つが挙げられます。

- ① 組織的・継続的な体制の構築 = 持続可能性**  
校長や特定の教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」です。
- ② 当事者意識・役割分担 = 社会総担かり**  
学校運営協議会や熟議等を通して、子供たちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子供を育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」できます。
- ③ 目標・ビジョンを共有した「協働」活動**  
校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子供たちが抱える課題に対して関係者がみな当事者意識を持ち、「役割分担をもって連携・協働による取組」ができます。

コミュニティ・スクールは、学校運営や学校の課題に対して、広く**保護者や地域住民の皆さんが総力できる仕組み**です。当事者として、子供の教育に対する課題や目標を共有することで、学校を支える取組が充実するとともに、関わる全ての人に**様々な力が広がっていきま**す。

|                     |   |  |
|---------------------|---|--|
| <b>子供にとっての魅力</b>    | <ul style="list-style-type: none"><li>● 子供たちの学びや体験活動が充実します。</li><li>● 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。</li><li>● 地域の担い手としての自覚が深まります。</li><li>● 防災・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。</li></ul>            |  |
| <b>教職員にとっての魅力</b>   | <ul style="list-style-type: none"><li>● 地域の人々の理解と協力を得た学校運営が実現します。</li><li>● 地域人材を活用した教育活動が充実します。</li><li>● 地域の協力により子供と向き合う時間が確保できます。</li></ul>                                      |  |
| <b>保護者にとっての魅力</b>   | <ul style="list-style-type: none"><li>● 学校や地域に対する理解が深まります。</li><li>● 地域の中で子供たちが育てられているという安心感があります。</li><li>● 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。</li></ul>                                    |  |
| <b>地域の人々にとっての魅力</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながります。</li><li>● 学校が社会的つながり、地域のよりどころとなります。</li><li>● 学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。</li><li>● 地域の防災・防災体制等の構築ができます。</li></ul> |  |

「コミュニティ・スクールって何?!」(文部科学省)より抜粋

第1回の会合では、委員さんの紹介のあと、校長よりコミュニティ・スクールの概要や今年度の学校運営基本方針の説明をし、承認いただきました。そして、学力調査、健康生活アンケート、体力・運動能力調査、保護者アンケートの結果をもとに、担当職員より本校の現状について説明をしました。(概要は下表の通り)

| 分科会 | 確かな学び   | 心の育ち   | 体力向上   |
|-----|---|--|--|
| 現状  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いて学習に取り組んでいる。</li> <li>○全体的に基礎基本が定着している。</li> <li>○多くは学校で進んで読書している。</li> <li>▲自分の考えを大きな声で話すことに課題がある児童がいる。</li> <li>▲家庭学習の定着に個人差がある。また家庭読書の習慣も不十分である。</li> <li>▲基礎基本に課題がある児童が各クラスにいる。</li> <li>▲児童が学習で地域の方の生の声を聞く機会が少ない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校全体が落ち着いた雰囲気でも児童も安定している。</li> <li>○友達に声をかけ、助けてあげることができる児童が多い。</li> <li>▲あいさつが弱い。声が小さく聞き取れなかったり、返事が返ってこなかったりする。</li> <li>▲自分から進んで考え、行動することが弱く、指示待ちの児童が多い。</li> <li>▲以前に比べ減ったが、まだまだ廊下を走る児童がいる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○大きな怪我や病院にかかる怪我が少ない。</li> <li>○保護者の意識が高く、治療率(歯・視力)は高い。</li> <li>▲目標やめあてを立て、それに向けて努力することなど粘り強く取り組む力が弱い。</li> <li>▲体力テストでは、投げること、持久力の基礎的な運動力が足りない。</li> <li>▲テレビやゲームの時間が長いほど、就寝が遅くなる傾向が見られる。</li> </ul> |

委員の皆様からは「体力の落ち込みが大きいことに驚いた。場所的なハンデキャップがあるのではないか。」「子供達に体験的な活動を行っているが、参加する児童は決まっている。活動する中で、挨拶も身についていく。」などの意見が出されました。

その後、担当職員も入り「確かな学び」「心の育ち」「体力向上」の3つの分科会に分かれて、本校の現状をよりよいものに改善していくための協議を行いました。

#### 「確かな学び」分科会

- ・一つにターゲットを絞って取り組む必要がある。
- ・学校のニーズを洗い出し、人材バンクのようなものを作ることからスタートする。

#### 「心の育ち」分科会

- ・家庭でしっかり挨拶をしているかどうか、親の姿が反映される部分もある。保護者へ働きかける必要がある。
- ・児童が知らない地域の方へ挨拶するのは難しいので、顔見知りになるような交流活動を増やすとよい。
- ・挨拶の環境をつくることを考えていく。

#### 「体力向上」分科会

- ・肥満傾向の子が多いと感じる。シャトルラン(持久力)の結果と関係があるのかもしれない。
- ・ボール投げ=握力と関係している。ぶら下がる等の遊びに取り組むのがよい。
- ・今年度は、体力が高まる取組を考えていく。



次回の第2回学校運営協議会は、11月27日(月)の予定です。今後も協議会の様子や学校の取組について、この「コミュニティ・スクールだより」を通じて保護者・地域の皆様にお知らせいたします。